

◆講義⑦〔電子書籍の動向と図書館サービス〕への質問◆

質問1 現在の多くの公立図書館に対する問題提起とも言えるお話をありがとうございました。私自身、保守的な考えから抜け出せずにおりますので、驚きをもってお話をうかがいました。特に、「図書館サービスの方向性が電子図書館に移行する」ということは、これからの図書館の在り方を考えていく上で、大きな方向転換だと思います。現在、多くの高齢の方々や、若い世代にも自館をご利用いただいておりますが、これまでの利用者の体験の場を失うことにもなってしまうのではないかと考えます。書籍の読み方にしても、電子書籍の読み方と、紙ベースの書籍の読み方とは、全く同じようには読めていないように感じます。子どもたちにも、紙の本の五感をつかって読むことを意識してきましたが、電子書籍に慣れさせていく、ということが必要になってくるのでしょうか。実際、一人一台端末が学校に入り、子どもが慣れるのは早いとは思いますが。

電子書籍への移行は、今後も進むことが予想されます。デジタル化についても、「現物があるからこそそのデジタル」という考えは古いのでしょうか。今後の図書館の在り方を考えたときに、電子書籍への積極的な移行が、地域や県民のニーズに合致するのか、疑問を抱きました。電子書籍の積極的な導入によって失うものもあると思いますが、それでも進めるべき、見落としてはならない留意点を御教示ください。

回答

電子書籍の果たす役割として重要なのは「紙では担えないサービス、コンソツ」です。コロナ禍以前で電子図書館がなかなか普及しなかった頃、電子書籍に求められたのはアクセシビリティ（読み上げ、文字拡大など）でした。コロナ禍で一気に電子図書館が普及した理由は、非来館24時間サービスです。いずれも、紙書籍ではできません。今後、紙書籍のない電子書籍も増えていけば、必然的に電子図書館が求められます。

市川沙央さんの芥川賞受賞で、読書バリアフリー法が注目されており、改めて電子図書館によるアクセシビリティ対応が必須となってきました。出版社発行のアクセシブルな電子書籍も増えています。このためには、紙書籍として蔵書していても電子書籍で契約する必要があります。

今の児童・生徒は電子端末で教科書を学び、本を読んでいることが当たり前です。紙が電子に置き換わると言うより、紙と電子の二刀流で育っています。図書館は紙のサービスだけではあまりにバランスを欠くといえます。

立川市立図書館を例に紹介したように、電子図書館を導入したことで、児童生徒に図書館利用が急増しました。今の図書館は、図書館に来て利用している人を語りがちですが、それは地域住民のせいぜい2割です。図書館利用者ではない人たちへのアウトリーチをもっと考えるべきです。

質問2 43 ページ「『ベストセラー』を電子書籍貸出する意味とは？」で先生がご自身の見解を話されていましたが、「電子書籍で導入して予約多数になったら複本を入れればよい」というような内容だったかと思いますが、よく聞き取れなかったのと、自館でもベストセラーの複本問題は課題になっていますので、いま一度詳しく伺いたいです。

回答

私は問題視するのは、「図書館利用者のニーズがあるからベストセラー貸し出しや複本は当然である」というアンケート回答でした。図書館の役割を考えたら、新刊ベストセラーを複本して図書費を多く使うことには反対ですが、現状の複本は、抑制がきいていて問題がないレベルと思っています。人口の特に多い地域で館あたり2冊、3冊程度はやむを得ないと思います。電子書籍の都度課金制度（貸し出しごとに課金）がありますが、ベストセラーで都度課金にしたら、図書費の出資が増え、本来、備えるべき図書が購入できなくなります。

質問3 電子書籍とは違う話です。専門書版元さんで「図書館が買ってくれば採算が取れる（公共図書館は3千館超で全部の図書館が購入すれば採算がとれそう）」といったようなお考えをお持ちの方がいらっしゃるとかいないとかのお話をお聞きになったこと等がございますでしょうか。

回答

「書店・図書館等関係者における対話の場の開催について」

<https://www.jplic.or.jp/topics/2023/09/27/170000.html>

第1回会合で、構成員の一人である、原書房・成瀬社長が発言していました。まもなく、議事録も公開されると思います。ごく一部のベストセラーを除き、大半の出版物は図書館での購入が出版活動の下支えとなっています。